

## 歴史(江戸時代⑤・キリスト教編)

徳川家康は、貿易の利益のため、キリスト教の布教を黙認していたのだが、1612年、幕領に①\_\_\_\_\_令を出し、キリシタンへの迫害(②\_\_\_\_\_など)を行い、信者を見付け出していた)が始まった。1635年、徳川家光は、日本人の海外渡航を禁止して③\_\_\_\_\_貿易を停止し、長崎の町中に住んでいたポルトガル人は④\_\_\_\_\_に移し、日本人と交流できないようにした。このようなキリシタンへの迫害や重い年貢に苦しんでいた人々は、1637年、神の使いとされる⑤\_\_\_\_\_という少年を大将にして⑥\_\_\_\_\_一揆を起こした。これを鎮圧した幕府は、1639年、ポルトガル人を追放し、その後、⑦\_\_\_\_\_船と⑧\_\_\_\_\_船だけが、長崎での貿易を許されることになった。このような幕府による禁教と貿易統制を⑨\_\_\_\_\_という。